

# PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

## 心を捨てる

見たくないものから目をそらし、聞きたくないものから耳をふきぎ、知りたくないものすべてから心を閉ざしていく……。私は、そういう生き方をしていたのではないかと反省しています。

中絶は、母体が傷つくだけでなく、一つの心を捨て去ってしまうもののように感じます。親になるという心＝人間らしい心を捨て去りはしないだろうかと思つのです。

「生まれて来てても幸せにはなれない」なんて誰が決めるのでしょうか。現在生きている私達だって、生きていることが幸せか不幸かなんて言えはしないのに、お腹の中の子供の将来を誰がわかるといえるのでしょうか。

中絶が行われるのは、お腹の中の子供の責任なの

でしょうか。欲しくないから中絶するということが当たり前として行われているからこそ、「私は生まれたくなんてなかったよ。誰も産んでくれなんていわなかったのに。」という子供が育つてしまうのではないのでしょうか。

子供は未来からの贈り物です。あずかりものという人もいます。そして、親の姿をそのままに写し出す鏡のような存在でもあります。人が人として生きる限り、人は人からしか生まれられないのです。子供は、親を通して人間のすべてを吸収して大きくなっていくものなのです。未来を創り出していく、大きな原動力となる大切な宝物なのです。その子供を、簡単に中絶という形で闇にほうむって欲しくはないのです。

赤ん坊の真っすぐな目を見つめる時、自分の生き方が問われているような

気がします。けがれない赤ん坊の前では、誰もが正直になつてしまうような気がするのです。この赤ん坊の純な目をにこらさなためにも、私達は生きることに、生命について考えることを止めてはならないと思つのです。母となること、親となることを、もっと真剣に考えて欲しいと思つのです。

人に嘘はつけても、自分に嘘はつけないからこそ、一人の女性として、同じ女性に対し、もっと自分を大切にしたいと思つのです。一人の人間として、生命の尊さを考えて欲しいと願わずにはいられないのです。

(高知女子大4回生)



## 若者と

### 中絶反対運動

十代の若者の自殺と中絶の間には関連性があるのだろうか。何百万という胎児殺害を合法化していることは、後に残された兄弟たちに対して深い傷を負わせている。

私たちの前の世代の間は疫病や災害、そしておそらく戦争さえもくぐり抜けてきた。しかし、今の十代の十人に一人は、自分たちの親によって殺されているのである。今日の十代の若者たちは、もしかしたら自分たちの兄弟となるはずだった者がこの世に今存在しないのは、彼らが親に「望まれていなかった」からだと知っている。そしてさらに、彼らは場合によって、自分たち自身も同様に「望まれなかった」のではないだろうかと思

嬰兒殺しや安楽死の話

は、十代の若者たちにとって、自分の生命の価値に対する不確実さを増すばかりである。彼らは、両親が無条件に自分のことを本当に愛していてくれるのだろうか、それともある種の状況によってはその愛は減ってしまうのだろうかと思わずにはいられない。青年期の成長過程では、しばしば身体的にも精神的にも、自分が別の人間になっていくように感じるものである。彼らは自然と、両親や友人が自分を変化していったも変わらず愛し続けてくれるか、それとも「望まれなく」なってしまうか問うようになる。私の知る限りでは、多くの若者たちがこの不確実さに苦しんでいるようである。自殺的な状況に陥っている若者たちが一番ひどく苦しんでいる。その心の底で、彼らは両親の無条件の愛に対する信頼をな

くしているのである。

若者たちの苦悩は、彼らを取り囲む文化によってもさらに強められる。彼らは、テレビや映画の有名人は、その容姿、お金、才能等のゆえに「望まれていない」存在なのだと思う。しかし、普通の若者たちは、金持であったり、才能を開花させていることはほとんどないだろう。彼らは大きな可能性は持っているが、それはまだほとんど表面には現れていない。誰が彼を望むだろうか。

逆説的には、十代の若者たちの自殺の根本原因、その解決方法も示している。「中絶賛成」の条件付き愛が、若者たちの自己の価値に対する疑いにつながっているのであれば、子宮の中の生命に対する無条件の愛が、自らを癒すために必要な愛だということになる。子宮の中の生命は愛されるべきものだと、いうことを信じる若者たち

は、自分自身の生命もまた生きるに値するものであると信じていることができるのだ。

不幸なことに、彼らは中絶について真実を知らされていない。多くの場合、中絶は罪悪であるということを知ってもらうために、『沈黙の叫び』というビデオを見せるとよい。彼らが真実を知って語り始める時、仲間はそのを聞くだろうし、中絶賛成派は退いていくだろう。

若者たちは、「胎児の生命を守る」という一つのことを通して、自らを確かなものとしていくことができるだろう。赤ん坊を、そしてその親を中絶から救う手伝いをするることによって、この人生においてだけでなく、来るべき人生においても彼らが探している幸福を見出すことができるだろう。



# ABORTION

## QUESTIONS & ANSWERS

産児制限とは何ですか

産児制限とは、出生を人工的に制限する全ての方法です。『産児制限』という言葉は、子供の誕生や自己コントロールとは何の関係もありません。産児制限は様々な形をとって人口枠を制限し、世界各国で貧しい人々や、マイノリティの出産率を下げるための政策の一つです。産児制限は、既婚の夫婦が家族の数を制限するのに用いられます。また、独身の人々が無差別のセックスを『制限』や『産児』なしに楽しむためにもよく使われます。しかし、全ての産児制限の方法、中絶ですら100%安心とは言えないのです。時として新しい生命が誕生してしまうのです。

「生存権運動」「中絶反対運動」「生命尊重運動」それぞれの違いは何か。

その名が示す通り、どの運動も目指すところはひとつ。人間は皆生きる権利を持ち、法による人権保護を受けるべきである」ということを信じる者の集まりである。「生命尊重」派は、主として中絶に焦点を当てている。というのは、そこで殺人が行われているにもかかわらず、現在、それが合法とされているためである。

それぞれの運動の骨子は、「生命尊重」という言葉が最もよく表現している。生命尊重運動は、人権保護を目的とした総合的な試みである。胎児が母体内にいるうちから、彼らの生存権を守るのもちろんのこと、その新しい生命に深くかかわる家族ととりわけ母親についても、同様に

十分考慮する立場を取っている。

障害を持って生まれた子供についても、考えていかなければならない。我々は全面的に生命肯定の立場を取る。胎児の生命が奪われるのをくい止め、その子の両親へも期待を持ち続ける。中絶を生命の発達過程と切り離して考えることは、我々にはできない。二千万件以上に上る中絶に、無関心であるからこそ、障害を持つ新生児を殺そうかなどと大胆にも言えるのだ。また、我々と同じ人間でありながら、年老いていたり、病気にかかっているというだけで、彼らには生存権がないかのように決めつけることもある。

生命の始まりを保護するのであれば、生命が自然に終わりを告げるまで終生守り続けるべきではないか。

生命尊重運動は倫理的義務感によるものである。

我々は単に、子供の生命を救おうという理由一つで動いているのではない。人類全てを守るという意図があつてこそその運動である。我々はいつも、子供が子宮内にいる間だけ気遣っているのではないか、と言われるが、それは間違つた非難であり、何とか乗り越えたいと努力している。

法の下の人権保護を求めて、非力な子供たちのために力を合わせていくことが重要である。

## 国内ニュース

『あなたの

宝のあるところに

あなたの心がある』

全国の小学生に、「ぼくのたからもの・わたしのたからもの」と題した作文を募集して「たからもの」の内容を分析した結果、ミニ四駆など「物」を重視する男子に対し、女子は兄弟姉妹やペットなど、「心」のつながりを大切にすると、という結果が出た。

男子の「たからもの」の1位は「ミニ四駆」(7・2%)。「昆虫」(5・8%)。「兄弟姉妹」(5・0%)と続き、4位「野球道具」、6位「テレビゲーム」、9位「自転車」と、「物」の順位が高い。

一方女子は、1位が「兄弟姉妹」(6・1%)、2位「犬」(5・7%)、3位「両親」(5・5%)の順で、10

位以内で純粹に「物」と言えるのは5位の「ピアノ」と10位の「オルゴール」くらいだった。

テレビゲームは男子で6位だったものの、女子で「たからもの」とした子はほとんどゼロで、全体では14位にしかならなかった。また、男子の「物」の場合も、大事な理由として「お父さんのプレゼント」とする子が多く、分析した第一生命では、宝物自体は物でも、その理由には精神的な面を子供なりに感じている」としている。

朝日新聞 1990.8.14付

『中絶はか非か?』

問題は中絶はか非か、という単純なことではないのだということ、分かっていたらいいのです。女性が、女性であるがために

かかえている事情とは。中絶してもよい時期を短縮する前に国が行うべき政策は何なのか。母体の健康と人生を守ることへの配慮なしに、本当の意味で生命尊重は語れません。

坂本正一

中絶が胎児にとって、「生か・死か」の問題であるということは、中絶はか非かは、明解ではないですか!? 母体と共に胎児の人間尊重も語られてこそ、本当の生命尊重ではないでしょうか?

プロ・ライフ

## 国際ニュース

【ナイジェリア】

ナイジェリアでは、すでに人口統計調査の準備が進められている。この調査は、ナイジェリアの国民人口委員会によって行われるものだが、国連人口基金(UNFPA)が「援助」という形で参加する。アフリカで顕著な動きをする国とあって、ナイジェリアは国際的な人口管理機関からキー・ターゲットとして注目され、すでに国内で活動している機関もあるほどである。

【カナダ政府】

カナダでは、政府の支持する中絶法案(C-43条)によって人間の生命が受精の瞬間に始まるかが否定され、出産に至るまで非常に曖昧な健康上の理由による中絶が認められ、医学的資格のない墮胎医に

よる中絶さらに非公認の病院での中絶も許可された。

カナダのプロ・ライフグループは、一団となつてこの法案を拒否し続けている。多くの宗教団体もプロ・ライフグループに賛同している。

【「ニュージールランド政府の中絶推進」

ニュージールランド政府は、プロ・ライフグループが結束して大々的な反対運動を始めたために、進退窮まってしまう。この法案は中絶することを認可された医者の数を77名から300名に増やし、彼らが初対面の女性に中絶を行うことを許可し、16才以下の子供には両親の許可なしに中絶が許されることを合法化するものである。

政府はこの法案について、手続き上の若干の修正を加えたただだと述べているが、ニュージールランド

胎児保護協会の会長は、真の目的は、中絶を受けやすくするため「であると反発している。ニュージージーランドではすでに中絶は合法化されている。一九八八年には1004件の中絶が行われた。

1000通以上もの請願書が政府に提出され、この法案の廃止が訴えられてきた。この法案が公表されてから、様々なところでプロ・ライフの集会、講演会、講習会ツアーが数多く行われている。

## 読者の声

『宿されたいのち』

現在、私は、男の子四人の母です。三番目の出産後、心身ともに体調をくずし、主人をはじめ、身内の人々から、強引にすすめられるまま永久避妊の手術を受けました。にもかかわらず、一年後、奇跡的ともいわれるくらいに妊娠しました。もちろん周囲は、「おろした方がよい」の一言でした。カトリックの洗礼を受けて十二年目、いのちのすばらしさを体験しています。宿されたいのちは、すべて神の御計画であると信じています。

(Mさん) 沖縄県

## 若者の声

昨年、秋、久留米信愛女子学院高等学校の間瀬先生よりお手紙をいただきました。

『さて、いま私たちの学院の高校3年生は、聖書の授業を通して、「生命の尊重」を学んでいます。初めに、「受胎の神秘」のビデオを見せ、その後「沈黙の叫び」鑑賞しました。3年生で、やはり現実をよく知って、決してそのようなことをしないためにもしっかりと見て心に刻んでおいて欲しいと思ったからです。これを見た生徒は、確かにシヨックを受けているようでしたが、小さな生命を大切にすることを Visual にわかったようでした。次には、「新しい生命を守るために」のビデオを見せるつもりをしています。そして、感想を書いてもらおうと計画しています。』とあ

り、その後、たくさんの生徒達の感想文を送ってくださいました。

軽々しく考えていません

私が、ビデオを見て、まず思ったことは、「生命の尊さ」についてです。

私は、ビデオを見たことによつて、中絶のことがくわしく分かりました。今までは、少し軽々しく考えていました。けれど今では、そのことを反省しました。赤ちゃんは、まだ生まれていなくて、お腹の中にいる時でも、もう一つの生命が始まっているのだからその尊い生命を奪う権利など、だれにもないと思います。そして、中絶のやり方について思ったことは、あんなに簡単に、また、赤ちゃんの体をぼろぼろにして殺すなんて、ひどすぎると思いました。中絶を軽々しくする人が、多いとすると、中絶をする

前に、自分自身の軽率な行為をやめて、もっと、生命の尊さについて深く考えるべきだと思いました。

(田中木綿子)

生まれこれ幸運だった

聖書の時間、ビデオを見て改めて命の尊さを実感しました。現在、自分がこの世にいることをあたりまえのように考えていたけれども、生まれてこれて幸運だったと感じました。

胎児をつかもうとする時に、子宮の奥へ逃げた口を大きく開けて助けを求めているような様子を見た時、「なんて残酷なことをするのだろう」と思いました。それぞれの命が秘めた可能性を無駄にしない為に、生まれて来る命を大事にするべきだと思います。

(近藤和美)

教え続けて

いつて欲しい

こんなに差別されて

いいの

私は、二本のビデオを見て中絶に対する考えが180度変わったように思いますが。今まで、生まれる前だからいいだろうという程度にしか考えていなかった。母親のお腹で逃げまわる胎児の姿、声なき叫びはとてもショックでした。胎児も一人の間人であることと確信できた貴重な体験をもとに、私自身が考えていくだけでなく周りの女性にも伝えていけたらいいと思っています。また、先生に信愛生にビデオを見せ、小さな命でも尊重すべきだということを教え続けていつて欲しいと思います。

(福田ゆり子)

中絶と出産という全く正反対のことから生命を考えて、世の中生まれてくる子と生まれてこない子がこんなに差別されているのかと思った。そして私が18年前にこの世に生を受け、ここまで育ててもらったことに深く深く感謝した。命は初めもとても大切だけど、今ある自分を卑下したりせずに大切にしていきたいと感じた。私には子どもが欲しいとかいう気持ちは全く感じないけど、将来自分が生み育てるときにはこの今の気持ちをお忘れずにいたいと思う。

(中願寺希)

今静かなブーム  
プロ・ライフより

新刊発売

著者

マイケル・T・マニオン

目次

まえがき 7

1 教会の中と外の  
ジレンマ 13

2 聖書が教えて  
くれること 23

3 生命の創造主は、生命の  
損失を必ずいやして下  
さる 49

4 最後に振り返って 61

参考になる聖書の部分 65

(本) プロ・ライフ一冊ご  
注文：¥3000+郵送料

### 《事務所だより》

来る4月25・26・27日、母と子の共存をめざす「生命尊重世界会議東京大会」が開かれます。

『1』の世界会議は、生命尊重の実践活動を推進する国際組織「International Right to Life Federation」(事務局ローマ)が、ノルウェーのオスロで開いた大会に続くもので、東京大会では、オスローの大会で提案された「胎児の人權宣言」を採択し、併せて「生命尊重の日」を定めて、世界にアピールする予定です。昨年、国連で「子どもの人權に関する条約」が採択されましたが、胎児の人權は陽の目を見ませんでした。人類は、胎児を一個の人間と認める、共通の認識に至っていません。地球規模の自然破壊などを見ますと、私たちがかつて胎

児であり、今も地球を母胎として生息する、小さな生命であることを忘れていくようです。胎児の思いと、地球の思いに耳を傾けるやさしさが、「胎児の人權宣言」です。『詳しい日程等については4月のニュースでお知らせいたします。

たくさんビデオの感想文を送っていただきました。

久留米信愛女学院高校の間瀬先生、小野田市のサビエル高校で教えておられるシスターベアトリス、本当にありがとうございました。子供たちの鋭い感性に、言葉に唸ってしまいました。教育の素晴らしさ大切さと共に、恐ろしさも感じます。

いよいよ出来上がり  
ました。

聖母の騎士社に依頼して  
いました、アメリカで中絶  
反対を唱えて献身的に働  
いているマニオン神父の  
著書「中絶反対をとねえた  
—巡礼者の想い」が、やっ  
と本になりました。是非お  
読みください。